

2023年度

東京薬科大学大学院薬学研究科

薬学専攻博士課程

学生募集要項

(一般入試二次募集)

東京薬科大学大学院薬学研究科

2023年度 東京薬科大学大学院薬学研究科

薬学専攻博士課程（4年制）募集要項（一般入試二次募集）

薬学研究科の基本理念・目的

薬学研究科は、人類と生命を慈しむ心と、科学技術の発展および人類の福祉と健康に貢献するための薬学研究を推進できる高度な研究能力と学識を持ち、国際社会で活躍できる人材の養成を基本理念・目標としています。特に、高度医療、医薬品開発、大学教育などの分野において薬学研究者としての視点を有する医療人および指導者の養成に主眼を置いています。

なお、社会人課程では、医療機関、行政機関、企業等に在職中の社会人を受け入れ、上述した能力を持つ人材を養成します。

【薬学研究科の入学受入方針（アドミッションポリシー）】

東京薬科大学大学院では最先端の研究活動を通じて、薬学・生命科学領域における広範囲な基礎的・先進的知識と技能を修得し、自ら問題点の抽出と問題解決を進めていくことが実践できる人材を育成するために、学士あるいは同等の学位を持ち、かつ以下の能力を持つ大学院学生を求めています。

東京薬科大学が求める大学院学生像

- 1) 研究者・技術者として社会に貢献したいという強い意志を持っている。
- 2) 豊かな人間性を養うために積極的な自己研鑽に励むことができる。
- 3) 相互理解のための表現力・コミュニケーション能力に優れている。
- 4) 基礎学力があり、高い勉学意欲を持っている。
- 5) 国際的な視点と倫理性と高い教養を持っている。
- 6) 自ら果敢に新たな分野の開拓等に挑戦することができる。

薬学研究科博士（薬学）課程の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）

薬学研究科は、修了認定・学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針に定める教育を受けるために必要な、以下にあげる人材を求めます。

- 1) 高い探求心および学習意欲を持ち、自己研鑽に積極的に取り組むことができる。
- 2) 責任感や倫理観が強く、協調性を持っている。
- 3) 化学および生物学などの自然科学系のみならず、国際化に対応する語学力を身につけている。
- 4) 薬学や臨床に関わる科学技術と知識を駆使した研究を介し、指導者的立場の医療人として、社会に貢献したいという強い意志を持っている。

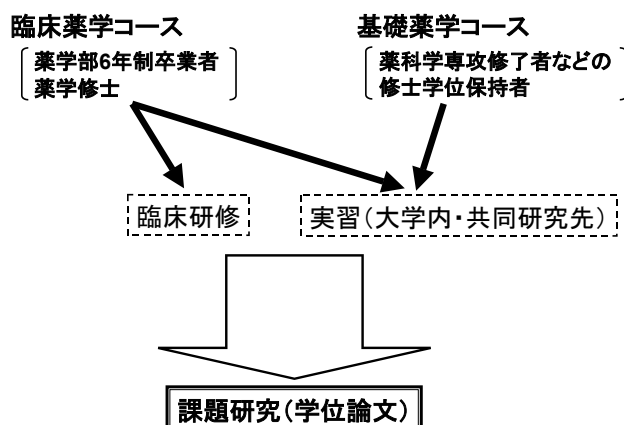
以上のアドミッションポリシーを踏まえ、本学薬学研究科薬学専攻博士課程には「臨床薬学コース」と「基礎薬学コース」の2コースを設ける。

薬学部卒業生及び薬学修士（薬剤師免許保有者）は、臨床薬学コースに所属し、大学病院での臨床研修を受講することが選択できる。薬学部以外の学部出身の学生は基礎薬学コースとなり、これら薬剤師免許非保有者についても臨床に関連する研究指導が実施される。

薬学部以外の学部出身者には、大学院での講義、演習、実習の他に薬学領域の研究への考え方を理解するために学部の講義を聴講することも認める。コース制についての詳細は、入学後のガイダンスにて説明する。

なお、本過程では、年間を通し東京医科歯科大学にて夜間行われる「未来がん医療プロフェッ

シヨナル養成プラン」の講義の履修により、必要な講義単位数を習得することが可能である。



1. 募集人員 若干名

2. 募集研究分野 **※募集教室一覧を添付する**

- ◇医化学 ◇医薬品情報学 ◇衛生化学 ◇生薬学 ◇薬剤学
- ◇薬物治療学 ◇薬理学 ◇臨床生化学 ◇臨床分析化学

3. 出願資格

【一般学生】

- (1) 大学（6年制薬学教育課程）を卒業した者（2023年3月学位取得見込者を含む）
- (2) 修士の学位を有する者（2023年3月学位取得見込者を含む）
- (3) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
（2023年3月学位授与見込者を含む）
- (4) 修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本大学院が認めた者

【社会人学生】

出願資格は次の(1)～(4)のいずれかの資格と(5)の要件を同時に満たす者

- (1) 大学（6年制薬学教育課程）を卒業した者
- (2) 修士の学位を有する者
- (3) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (4) 修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本大学院が認めた者（6年制教育課程卒業者を含む）
- (5) 医療機関、企業、官公庁等に所属し、入学後もその身分を有したまま本学に入学を希望する者（所属長の就学承諾書が必要）

注：ただし、【一般学生】(3)、(4)および【社会人学生】(3)、(4)に該当する者は

2022年11月7日(月)までに、必ず薬学事務課大学院担当へ事前連絡すること。

4. 事前相談

希望研究室の指導教員に次の何れかの方法により連絡を取り、**2022年11月25日(金)**までに必ず相談すること。（なお 土日祝日の事務室は閉室 となるので注意すること。）

- (1) 東京薬科大学薬学事務課大学院担当（TEL:042-676-7312）または東京薬科大学受付（代表 TEL:042-676-5111）に電話のうえ、指導教員に取り次ぎを依頼する。
- (2) 東京薬科大学薬学事務課大学院担当（ygakuji-m1@toyaku.ac.jp）にタイトル「薬学専攻入試問い合わせ」として、氏名・出身大学・卒業年度（予定を含む）・希望教室名をメール送信する。折り返し、指導教員のメールアドレスを本学から連絡する。

5. 出願期間及び場所

2022年11月28日(月)から11月30日(水)まで薬学事務課大学院担当において受け付ける。

(受付時間 10:00~12:00、13:00~17:00 土・日・祝日を除く)

郵送による場合は、「薬学事務課大学院担当」宛に特定記録郵便にて送付する。

(2022年11月30日(水)17時までに**必着**)

6. 出願手続

入学志願者は研究分野の選定に際し、予め志望する研究分野の指導教授に連絡のうえ、下記の書類を出願期限までに提出する。

※下記の(5)の書類は社会人学生のみ提出が必要であり、一般学生は不要。

- | | |
|---------------|--|
| (1) 入学願書 | 本学指定用紙 |
| (2) 受験票 | 本学指定用紙 |
| (3) 研究業績調書 | 本学指定用紙
様式 (word 等のファイル) は本学ホームページよりダウンロード可。
なお、電子ファイルで作成した場合には、両面印刷のうえ、提出すること。(本学薬学部卒業者、本学大学院における修士学位取得者は不要) |
| (4) 成績証明書 | 出身大学が作成したもの (学部および修士課程の成績) |
| (5) 就学承諾書 | 指定の用紙に所在地、所属機関等の名前を記載のうえ、所属長の署名と捺印がされたもの (社会人学生のみ) |
| (6) 志望理由書 | 指定の用紙に志望教室への志望理由、大学院で進めたい研究内容について700字以上にまとめ、手書きとする (鉛筆不可)。 |
| (7) 検定料 | 35,000円 (別紙参照) ※振込手数料は各自負担 |
| (8) 写真 | 脱帽上半身、正面、縦4cm、横3cm
出願前3ヵ月以内に撮影したものを入学願書および受験票の写真欄に貼付する。 |
| (9) 連絡受信先シール | 住所・氏名を3ヵ所すべてに記入すること。 |
| (10) 受験票返信用封筒 | ※郵送出願者のみ
長3封筒 (12×23.5cm) に宛名を明記、344円切手 (速達) を貼付すること。 |

※ 出願書類に不備があるものは受け付けない。

7. 試験日時・試験内容及び場所

(1) 試験日時

月 日 (曜)	時 間	試 験 内 容
2022年 12月3日(土)	9:30~11:00	英語筆答試験
	12:30~	口述試験 志望研究分野を中心とした専門知識と研究能力を評価するための口頭試問 (口述試験の終わった者から順次解散)

(2) 試験場 本学

8. 合格者の発表

2022年12月9日(金)13時 合格者は本学教育棟2号館G階薬学研究科掲示板に発表するとともに本人宛に通知する。(注) 電話による問い合わせには、一切応じない。

9. 学費等納付金

(1) 納付金

納付金は次表のとおりである。なお、2年次以降の学費については、社会情勢の変動により変更することもある。

	入 学 金	施 設 費※	授 業 料	計
前期納付金	150,000 円	100,000 円	220,000 円	470,000 円
後期納付金		100,000 円	220,000 円	320,000 円

※施設費は入学年のみ、本学出身者は免除

(2) 納付期限等

前期納付金は、**2022年12月16日（金）**までに一括納入する。ただし、都合により一括納入できない者は、入学金を納付期限までに納入し、他の納付金を2023年3月3日（金）までに納めることができる。前期納付金を納付期限までに納入しない時は入学資格を失う。本学大学院修士課程から進学する者については、入学金及び施設費を免除する。また、本学出身者は施設費を免除する。

(3) 入学辞退の場合の学費等の返還について

前期納付金納入後に特段の事情が発生し、入学を辞退する場合は、2023年3月3日（金）<消印有効>までに本学所定の用紙によって入学辞退を届け出れば、入学金以外の納付金を返還する。

10. その他

(1) 在学期間の短縮について

薬学専攻博士課程の在学に関し、優れた研究業績を上げた者については、本研究科委員会が特に認めた場合に限り、この課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

(2) 受験に際して、偽りの記載又は不正の申告等が発見された場合には合格を取り消す。

(3) 一旦提出した書類並びに検定料はいかなる理由があっても返還しない。

(4) 問い合わせ先

〒192-0392 東京都八王子市堀之内 1432-1 東京薬科大学
薬学事務課 大学院担当 TEL 042-676-7312 (ダイヤルイン)
月～金 9:00～17:00
※土日祝日の事務室は閉室となります。

教 室 一 覧 〈薬学専攻〉

2022年10月1日現在

研究分野	教室名	指 導 教 員	研 究 テ ー マ
医 化 学	生物分子有機化学	教 授 宮 岡 宏 明	生物活性天然物の合成研究 生物活性天然物の探索と化学構造に関する研究
		准教授 釜 池 和 大※	
		助 教 太 田 浩 一 朗	
	分子生物物理学	教 授 三 島 正 規	生物活性化合物のデザイン・合成及び物理化学的性質に関する研究
		准教授 青 山 洋 史	
		助 教 永 江 峰 幸	
	薬 化 学	教 授 三 浦 剛	有機触媒を用いた環境に優しい有機合成反応の開発および生理活性物質の合成研究
		准教授 平 島 真 一	
		講 師 中 島 康 介	
	薬 品 化 学	教 授 林 良 雄※	有機化学を基盤とした難病治療薬の創薬化学研究および創製した医薬化合物に基づくケミカルバイオロジー研究
		准教授 谷 口 敦 彦	
		講 師 田 口 晃 弘	
薬 品 製 造 学	教 授 松 本 隆 司	有機合成の新手法の開発と生理活性物質の合成	
	准教授 矢 内 光		
	助 教 重 田 雅 之		
医 薬 品 情 報 学	医薬品安全管理学	教 授 杉 浦 宗 敏	医薬品の安全な使用の確保に関する方法論の確立
		准教授 今 井 志 乃 ぶ	
		助 教 清 海 杏 奈	
	社会薬学教育センター (社会薬学研究室)	教 授 北 垣 邦 彦	地域の保健、医療、福祉における薬局・薬剤師の役割に関する研究
	社会薬学教育センター (生命・医療倫理学研究室)	教 授 櫻 井 浩 子	“生老病死”の倫理に関する研究：薬学の視点から
	社会薬学教育センター (薬事関係法規研究室)	教 授 益 山 光 一	レギュラトリーサイエンスに関する研究
臨 床 薬 効 解 析 学	教 授 山 田 安 彦※	医薬品の効果および副作用の解析と予測	
	准教授 高 柳 理 早		
	講 師 片 桐 文 彦		
衛 生 化 学	衛 生 化 学	教 授 早 川 磨 紀 男	酸素ストレス、低酸素ストレスによる生体障害の分子機構に関する研究
		講 師 藤 野 智 史	
		助 教 大 嶋 利 之	
	公 衆 衛 生 学	教 授 藤 原 泰 之	環境有害物質の毒性発現機構および生体防御機構に関する研究
		准教授 篠 田 陽	
		講 師 高 橋 勉	
薬 物 代 謝 分 子 毒 性 学	教 授 山 折 大	薬毒物の代謝的活性化と不活性化メカニズムに関する研究 がん化学予防の分子メカニズムと酸化還元経路の制御に関する研究	
	准教授 小 倉 健 一 郎 注		
	講 師 西 山 貴 仁		
生 薬 学	漢方資源応用学	教 授 三 卷 祥 浩 注	薬用植物に含まれる新規生物活性物質の探索と漢方薬の有効性に関する基礎的研究
		准教授 横 須 賀 章 人	
		講 師 松 尾 侑 希 子	
薬 剤 学	創 剤 科 学	教 授 石 原 比 呂 之	核酸医薬等新規モダリティのための製剤技術およびアクティブターゲティング技術の創製
		准教授 高 島 由 季	
		講 師 濱 野 展 人	
	薬 物 送 達 学	教 授 根 岸 洋 一	難治性疾患治療のための薬物・核酸医薬 DDS 技術の開発および治療システムへの応用
		講 師 多 田 壘	
		講 師 高 橋 葉 子	
薬 物 動 態 制 御 学	教 授 井 上 勝 央	薬物の生体膜透過に関する制御機構およびその影響因子の解析	
	助 教 岸 本 久 直		
		助 教 樋 口 慧	

(注) ※2027年3月までの定年退職者

教 室 一 覧 〈薬学専攻〉

2022年10月1日現在

研究分野	教室名	指 導 教 員	研 究 テ ー マ
薬物治療学	医療実務薬学	教授 畝 崎 榮※	がん、緩和、支持療法領域における人を対象とした医療機関共同の臨床試験・研究
		准教授 川 口 崇	
		助教 藤 宮 龍 祥	
	臨床医療薬学センター	教授 山 田 純 司※	生活習慣病の病態生理と薬物治療：肥満症と代謝症候群に関する研究
		講師 大 友 隆 之	
	臨床微生物学	教授 中 南 秀 将	臨床分離細菌の分子疫学的解析と感染制御に関する研究
		講師 中 瀬 恵 亮	
	臨床薬剤学	教授 下 枝 貞 彦	がん化学療法における副作用の個別化軽減策に関する研究 循環器系ハイリスク（抗血栓薬・抗不整脈等）の適正使用に関する研究 災害時の薬剤師活動に関する研究
		准教授 平 田 尚 人	
		助教 畔 蒜 祐 一 郎	
臨床薬理学	准教授 杉 山 健 太 郎	細胞薬力学に基づく免疫疾患や癌のテーラーメイド薬物療法	
	講師 恩 田 健 二		
	助教 田 中 祥 子		
薬 理 学	機能形態学	教授 大 滝 博 和	グリアによる神経機能調節
		准教授 山 口 宜 秀	
		講師 林 明 子	
		助教 石 橋 智 子	
	内分泌薬理学	教授 田 村 和 広	創薬標的の探索を目指した妊娠成立機構の解明と不妊を招く疾患の病態解析
		准教授 吉 江 幹 浩	
		講師 草 間 和 哉	
	分子細胞病態薬理学	教授 田 野 中 浩 一※	心疾患の新たな治療法に関する研究
		講師 丸 ノ 内 徹 郎	
	病態生理学	教授 市 田 公 美※	痛風・尿酸血症などのプリン代謝関連疾患の病態解明
講師 長 谷 川 弘 弘※			
講師 藤 田 恭 子			
助教 関 根 舞	臨床生化学	教授 高 木 教 夫	脳神経系を中心とした疾患の病態解明と新たな治療戦略の創出
		准教授 林 秀 樹	
		助教 森 山 慶 之	
生 化 学	教授 佐 藤 隆	皮脂腺の機能および細胞外マトリックス代謝調節から解き明かす皮膚疾患の病態機構とその予防・治療薬および化粧品開発研究	
	助教 奥 山 勝 揮		
病 態 生 化 学	教授 野 水 基 義※	細胞接着分子の機能を利用したバイオマテリアルの開発および再生医療に向けた細胞創薬への応用	
	准教授 吉 川 大 和		
	講師 山 田 雄 二		
助教 濱 田 圭 佑	免 疫 学	教授 安 達 禎 之	免疫疾患の分子機構の解析 (感染症、アレルギー、自己免疫疾患、悪性腫瘍など)
		講師 山 中 大 輔	
		助教 菅 野 峻 史	
臨床分析化学	個別化薬物治療学	教授 降 幡 知 巳	生体模倣ヒト脳モデルを用いた脳疾患治療法開発 体内動態研究のための安定同位体標識体を内標準物質とした質量分析法の開発 ヒトにおける薬物代謝能の評価法の開発とテーラーメイド薬物療法への応用
		准教授 柴 崎 浩 美	
		講師 横 川 彰 朋	
		助教 森 尾 花 恵	
	生 体 分 析 化 学	教授 柳 田 顕 郎	薬物や生体成分の高性能分離法、高感度定量法及び物性・構造・機能解析法の開発
		准教授 東 海 林 敦	
		助教 森 岡 和 大	
	分 析 化 学	助教 守 岩 友 紀 子	Bioanalysis とファーマコゲノミクスのための高感度・高精度分析法の開発
		教授 袴 田 秀 樹	
		准教授 小 谷 明	
助教 山 本 法 央			

(注) ※2027年3月までの定年退職者